

科目名	専門分野			ディプロマ・ポリシー(DP)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
	成人看護学			担当教員	外部講師 専任教員				
	成人看護学領域横断								
履修学年	2年	履修学期	後期	単位数	1	時間数	44		
授業目標	1. 成人期の発達段階を踏まえ、健康危機状況にある対象の特徴と看護が理解できる 2. 身体機能の変化や喪失に適応しセルフケア再獲得に向けての支援が理解できる 3. 成人期の発達段階を踏まえ、セルフマネジメントが必要な対象の特徴と看護が理解できる 4. 身体機能の変化に応じたセルフケアマネジメントの支援の方法が理解できる								
回	学習内容				方法	担当教員			
1 2	1. 健康支援 1) パフォーマンス課題導入「唐津市のヘルスプロモーション行動を支える提案」 (1) 成人保健(特定健診、特定保健指導) 2) 社会の変化と保健に関わる意義・教育・指導とは何か (1) ヘルスプロモーター(2) ヘルスプロモーションモデルとヘルスプロモーション行動 3) 健康支援の基礎理論(学習支援理論 自己効力感) 4) 地域における公衆衛生の実践(1) 保健指導の原理原則 健康方法の支援 集団・個別指導 5) ライフステージと健康課題 (1) 成人期の発達課題と健康課題(2) 健康を守る法律と施策(特定健康診査・特定保健指導・がん検診) (3) 国民健康づくり対策 健康日本21(4) 働く人の健康課題と管理 産業保健と看護				講義 演習	専任教員			
3 4 5	2. 周手術期と看護 1) 手術期の看護の概要と看護師の役割 (1) 麻酔とは(種類と合併症 術前・中・後の管理)(2) 全身・局所麻酔(3) 硬膜外麻酔の管理(PCA)				講義 演習	外部講師			
6 7	2) 早期離床に向けての看護 (1) 不安・術後のリスクアセスメント ①ジャニスの理論 ②術前検査 (2) 合併症や有害事象の悪化予防の看護(一般外科)				講義 演習				
8 9 10 11	3) 手術侵襲と生体反応・回復過程 (1) 手術反応と生体反応 ①侵襲とは②ムアの侵襲回復課程(ホルモンと生体反応他) ③酸素化の促進 ④栄養管理 ⑤体液バランス (2) 手術に伴う不快症状のコントロール ①急性痛・・・③側面への影響と疼痛コントロール				講義 演習	外部講師			
12 13	4) ボディイメージの変化に対する看護 (1) 治癒過程にある対象とボディイメージ (2) 治療によりボディイメージの変化をきたした対象への援助 5) 集中治療を受ける患者と家族の看護				講義 演習				
14 15 16	3. 終末期と看護 1) 緩和ケアの現状と展望、終末期看護 (1) 緩和ケアの歴史と発展 (2) 緩和ケアの理念 (3) 緩和ケアの展望 (4) 尊厳死とリビングウェル 2) 緩和ケアにおけるチームアプローチ 3) 緩和ケアにおけるコミュニケーション 4) 緩和ケアにおける倫理的課題と意思決定支援 5) 緩和ケアの対象理解と全人的ケア 成人期の特徴 全人的ケア 6) さまざまな疾患における緩和ケアと終末期看護 (1) 悪性腫瘍(2) 心疾患(3) 呼吸器疾患(4) 神経難病(5) 療養の場の広がり 7) 癌性疼痛と緩和ケア (1) オピオイドの選択と麻薬の取り扱い				講義 演習	外部講師			
17	(2) リンパ浮腫				講義・演習				
18	8) 緩和ケア病棟における多職種との連携 ①MSWの役割と連携 ②リハビリテーションの実践と連携				講義・演習	外部講師			
19	9) 死の受容 ①成人期における捉え方 ②レポート(死生観) 10) 看取りの看護 (1) 院内での看取り①臨死期の対応 ②臨終時の看護・死後の処置 ③家族の参加 ④家族ケア				講義 演習				
20 21	11) 実践している看取りのケア ①病院・自宅・居宅・施設での死を看取る看護師の役割と連携 ②病院・在宅での臨死期の対応、 ③臨終時の看護・死後の処置 ④家族の参加 ⑤家族ケア				講義 演習	専任教員			
22	12) 看取りのケア ①死を迎えることを支えることの意味 ②病院・自宅・居宅・施設での死をみとる医師の役割と連携				講義	外部講師			
評価規準	パフォーマンス課題・筆記試験・レポート 100点								
評価方法	パフォーマンス課題・筆記試験・レポート 100点								
テキストおよび参考文献	専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論(医学書院) 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 別巻 臨床外科看護各論(医学書院) 別巻 クリティカルケア看護学(医学書院)								
履修上の注意点									